

I (1)  $\Delta t$ 秒後の位置は  $\vec{r}' = (x + v_x \Delta t, y + v_y \Delta t)$   
 速度は  $\vec{v}' = (v_x + a_x \Delta t, v_y + a_y \Delta t)$   
 に変化するので  $A_{uv}' = \frac{1}{2} \left\{ (x + v_x \Delta t)(v_y + a_y \Delta t) - (y + v_y \Delta t)(v_x + a_x \Delta t) \right\}$   

$$\equiv \frac{1}{2} (x v_y + x a_y \Delta t + \cancel{v_x v_y \Delta t} - y v_x - y a_x \Delta t - \cancel{v_x v_y \Delta t})$$
  

$$\Delta A_u = A_{uv}' - A_u = \frac{1}{2} (x a_y \Delta t - y a_x \Delta t) = \frac{1}{2} (x a_y - y a_x) \Delta t$$

(2) 面積速度が変化しないための条件は

$$x a_y - y a_x = 0$$

また運動方程式より  $\vec{F} = m \vec{a}$  が成り立つので  $F_x = m a_x, F_y = m a_y$

以上を連立して、 $F_x, F_y$ が  $x F_y - y F_x = 0$  を満たすとき、面積速度が変化しないことが分かる

(3) (2)より  $(F_x, F_y) \parallel (x, y)$  だから、力は常に原点Oの向きに働くことが分かる。

円の接線は接点と円の中心を結ぶ線分に対して、常に垂直となっていることから、力が移動方向に対して常に垂直に働いている。したがって力は仕事をせず、 $A \rightarrow B$ の移動でも、

$B \rightarrow C$ の移動でも力は仕事をしておらず、 $A \rightarrow B, B \rightarrow C$  の仕事も等しく0である

II (1) 
$$\frac{1}{2} m v^2 - \frac{1}{2} m v_r^2 = \frac{1}{2} m \left( v_x^2 + v_y^2 - \frac{x^2 v_x^2 + 2xy v_x v_y + y^2 v_y^2}{r^2} \right)$$
  

$$= \frac{m}{2r^2} \left( (v_x^2 + v_y^2)(x^2 + y^2) - (x^2 v_x^2 + 2xy v_x v_y + y^2 v_y^2) \right) = \frac{m}{2r^2} (x^2 v_y^2 + y^2 v_x^2 - 2xy v_x v_y)$$
  

$$= \frac{m}{2r^2} (x v_y - y v_x)^2 = \frac{2m}{r^2} A_u^2$$

(2) 力学的エネルギー E は

$$E = U + \frac{1}{2} m v^2 = -G \frac{mM}{r} + \frac{2m}{r^2} A_0^2 + \frac{1}{2} m v_r^2$$

まず  $r$  を変化させる。

$$E = 2m A_0^2 \left( \frac{1}{r^2} - \frac{GM}{r} \times \frac{1}{2m A_0^2} \right) + \frac{1}{2} m v_r^2$$

$$= 2m A_0^2 \left( \frac{1}{r^2} - \frac{GM}{4A_0^2} \right)^2 - 2m A_0^2 \times \frac{GM^2}{4A_0^4} + \frac{1}{2} m v_r^2$$

$$\frac{1}{r} = \frac{GM}{4A_0^2} \text{ のとき } \frac{E}{m} \text{ 最小値 } \frac{1}{2} m v_r^2 - \frac{G^2 m M^2}{8A_0^2}$$

この値は  $v_r = 0$  のとき最小となる。

以上より、半径  $\frac{4A_0^2}{GM}$  の円軌道を周回しているとき力学的エネルギーは最小となり、最小値は  $-\frac{G^2 m M^2}{8A_0^2}$

II (1) 半径  $r_n$ 、速度  $v_n$  とし、次の2つの関係が成り立っている。

$$\begin{cases} G \frac{Mm}{r_n^2} = m \frac{v_n^2}{r_n} \\ 2\pi r_n = n \frac{h}{mv_n} \end{cases}$$

連立して  $v_n$  を消す  $\frac{GMm}{r_n} \times 4\pi^2 r_n = \cancel{m} \times \frac{n^2 h^2}{m^2 \cancel{v_n}} \quad r_n = \frac{n^2 h^2}{4\pi^2 GMm^2}$

(2)  $n=1$ ,  $r_1 = R = 10^{22}$ ,  $\frac{h}{2\pi} = 10^{-34}$ ,  $M = 10^{42}$ ,  $G = 10^{-10}$  を代入。

$$10^{22} = \frac{1^2}{10^{-10} \cdot 10^{42} m^2} (10^{-34})^2$$

$$m^2 = 10^{10 - 42 - 68 - 22} = 10^{-122} \quad m = 10^{-61} \quad (\text{kg})$$

2

I (1) 電流  $I$ , 力  $f$  は右の図のようにになっている

左手の法則より 磁場は鉛直下向き

力  $f = BId$

導体棒が右に動くことで回路を貫く下向き

磁束が増加する。誘起起電力は、上向き

と作るような向きを流そうとする向きなので (レンツの法則)  $Y \rightarrow X$  の向き (X側を正とする起電力)

導体棒が速度  $v$  で動いているとき

$$V = Bvd, \quad V_0 - V = IR$$

の関係が成り立っている。十分な時間が経ったとき  $V_0 - V = 0$  となり電流値は 0 となる ( $V_0 - V$ )

このとき  $v = \frac{V_0}{Bd}$

(2) 運動方程式は  $m \frac{\Delta s}{\Delta t} = BId$

$$\therefore \Delta s = \frac{BId}{m} \Delta t \quad \Delta V = B \Delta s d = \frac{B^2 d^2 I}{m} \Delta t$$

(3) 電流の総量を  $Q$  とすると  $Q = \int_0^{\infty} I dt$  が成り立つ

また、運動量と力積の関係式より

$$m \frac{V_0}{Bd} = \int_0^{\infty} BId dt = BdQ \quad \therefore Q = \frac{mV_0}{B^2 d^2}$$

(4) (3) より  $Q = (\frac{m}{B^2 d^2}) V_0$  が成り立つ。これはこの回路が容量  $\frac{m}{B^2 d^2}$  のコンデンサーのように考えられることを意味している。したがって 倒進速さに いたるまでに必要な仕事は、コンデンサーの蓄えるエネルギーを参照して

$$\frac{1}{2} \left( \frac{m}{B^2 d^2} \right) V_0^2$$

$$s_0 = \frac{V_0}{Bd} \text{ だから } \frac{1}{2} m s_0^2$$

(5) 電池が供給したエネルギーは  $QV_0 = \frac{mV_0^2}{B^2 d^2} = m s_0^2$  だから、半分は導体棒の運動エネルギーに変換され、残りの半分は抵抗でジュール熱に変換されたと分かる。

運動エネルギー  $-\frac{1}{2} QV_0$     熱エネルギー  $-\frac{1}{2} QV_0$

II 倒進速さは  $\frac{V_0}{B \cdot 2d}$  となったので  $\frac{1}{2}$  倍になった。誘起起電力は  $B \frac{V_0}{B \cdot 2d} \times 2d = V_0$  なので 1 倍になった

スイッチを切っていた場合、電流は流れないので倒進速さは変わらず 1 倍、起電力は  $B \cdot \frac{V_0}{Bd} \cdot 2d = 2V_0$

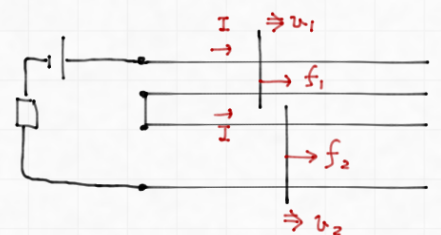
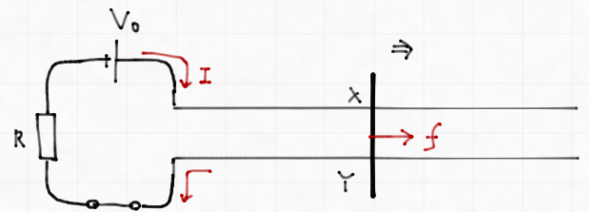
となるから 2 倍となる

$$\text{III} \begin{cases} V_0 - Bv_1 d - Bv_2 \cdot 2d = IR \\ f_1 = BId, \quad f_2 = BI \cdot 2d \end{cases}$$

$f_1 : f_2$  は常に  $1:2$  だから  $v_1 : v_2 = 1:2$  ( $v_2 = 2v_1$ )

十分に時間が経って  $I \rightarrow 0$  のとき  $V_0 - Bv_1 d - B \cdot 2v_1 \cdot 2d = 0 \quad v_1 = \frac{V_0}{5Bd}$

導体棒 1 の倒進速さ  $\frac{V_0}{5Bd}$     導体棒 2 の倒進速さ  $\frac{2V_0}{5Bd}$



3

I  $W_1 = -W_{AB}$   
 $= \frac{3}{2}R(T_B - T_A)$

$W_2 = p_B(V_C - V_B)$   
 $= R(\frac{4}{5}T_A - T_B)$

$W_3 = -W_{CD}$   
 $= \frac{3}{2}R(T_D - \frac{4}{5}T_A)$

II (1)  $\Delta U_Y = \frac{3}{2}R(T_E - T_D)$

(2)  $W_4 = -p_A(V_E - V_D)$   
 $= -R(T_E - T_D)$

(3) X, Y 全体を考えたとき。  
 外部から熱量をもらっていない

$Q_Y + \frac{5}{2}R(T_E - T_D) = 0$

Y  $p_Y V_Y = RT_A$

① 断熱膨張  $\downarrow$   $0 = W_{AB} + \frac{3}{2}R(T_B - T_A)$

B "  $p_B V_B = RT_B$

② 定圧  $\downarrow$   $\frac{5}{2}R(\frac{4}{5}T_A - T_B) = p_B(V_C - V_B) + \frac{3}{2}R(\frac{4}{5}T_A - T_B)$

C "  $p_B V_C = R \cdot \frac{4}{5}T_A$

③ 断熱圧縮  $\downarrow$   $0 = W_{CD} + \frac{3}{2}R(T_D - \frac{4}{5}T_A)$

D "  $p_A V_D = RT_D$

④ 定圧  $\downarrow$   $\frac{5}{2}R(T_E - T_D) = p_A(V_E - V_D) + \frac{3}{2}R(T_E - T_D)$

E  $p_Y V_Y = RT_E$

$p_A V_E = R \cdot T_E$

したがって

$\frac{3}{2}R(T_E - T_A) + \frac{5}{2}R(T_E - T_D) = 0$

$3T_E - 3T_A + 5T_E - 5T_D = 0$

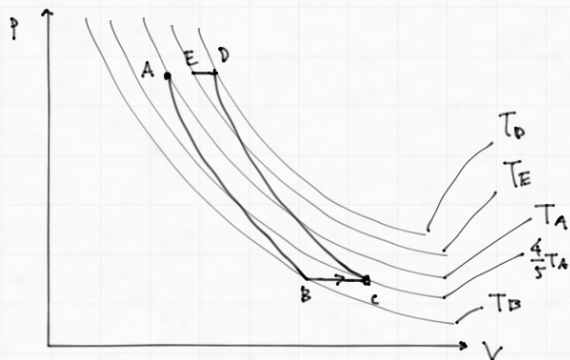
$T_E = \frac{3}{8}T_A + \frac{5}{8}T_D$

III (1)  $\Delta U_Y > 0$  とあるのは  $T_A < T_E$  のときで、II(3)の結果より、 $T_A < \frac{3}{8}T_A + \frac{5}{8}T_D$  より、 $T_A < T_D$  のとき。

$\frac{p_B}{p_A} = a^5 < 1$

A, B, C, D, E のときの X の温度は  $T_A > T_B < \frac{4}{5}T_A < T_D > T_E$

$T_D > T_A$  と併せると、 $T_B < \frac{4}{5}T_A < T_A < T_E < T_D \Rightarrow \text{オ}$



(2)  $T_A < T_D = \frac{4}{5}a^2 T_A$  だから

$a^2 > \frac{5}{4} \Rightarrow a > \frac{\sqrt{5}}{2}$

(3) 操作 ①~③ において 気体は外部からもらう熱量は  $Q_2$  だけ。  
 操作 ④ では X と Y でエネルギーが移動しただけ。

したがって X と Y をまとめて考えたとき、熱力学第一法則より

$Q_2 = -W + \Delta U_Y \times 2$   
← X と Y の両方とも  $\Delta U_Y$  増

$\Delta U_Y = \frac{Q_2 + W}{2}$

(4) n 回目の操作後の Y の温度を  $T_n$  とする。  $T_1 = T_E$

操作 ④ のとき、 $\frac{3}{2}RT_n + \frac{3}{2}RT_D = \frac{3}{2}RT_{n+1} \times 2$

$n \rightarrow \infty$  のとき  $T_n = T_{n+1} = T_\infty$  とし

$\frac{3}{2}RT_\infty = \frac{3}{2}RT_D \Rightarrow T_\infty = T_D = \frac{4}{5}a^2 T_A$